【　公演プログラム一覧　】

■「舞踏ディアスポラ」　ガラ公演＋シンポジウム

―世界各地に根を張って地道に舞踏活動を続けてきた日本人アーティストが一堂に会し、それぞれが小品を披露します。シンポジウムでは、映像を見ながら各自の活動を紹介し、文化背景の異なる人々がBUTOHをどのように受け止めているかなどを紹介。世界のBUTOHの状況について、現場からの声を聞く機会です。

実施日：５月２日(土曜日)15：00
会　場：草月ホール
出演アーティスト：遠藤公義、Oguri、カセキユウコ、竹之内淳志、田中トシ、ゆみうみうまれ
※50 音順

■ 劇場公演

世界を飛び回り、ダンス・音楽・映像とマルチジャンルで活躍する人気アーティストたちの日本初公演を含む話題作を上演。1960 年代の前衛芸術の拠点でもあった草月ホールをはじめ、都内地下劇場で開催。

『A Body in Fukushima』

―震災後の福島に何度も滞在し、撮影を重ねた渾身の映像作品の上映と、ソロダンス公演。2017 年ニューヨークメトロポリタン美術館での長時間上演を敢行し、好評を博した本作を、約１時間半の特別最新バージョンで上演します。

実施日：４月 28 日（火曜日）19:00、29 日（水曜日・祝日）13:00
会　場：東京ウィメンズプラザ　ホール
出演アーティスト：尾竹永子

〈アーティストプロフィール〉
尾竹永子　Eiko Otake
1970年代の日本で土方巽と大野一雄、ドイツでマニア・シュミエル、オランダでルカス・ホーフィンクに学ぶ。1976年にニューヨークへ拠点を移し、「エイコ・アンド・コマ」として独自の身体表現を追求。さらに2014年から始めたソロの活動『A Body in Places』で新たな注目を集めている。ホイットニー美術館、MoMA、ウォーカー・アート・センター等で継続的に作品を発表。アジア人として初めてADFアワード（2004）、ダンス・マガジン・アワード（2006）を受賞、他多数。

Screengrab from Eiko and Don Christian's video, SOAK

『デュエット・プロジェクト』

―舞踊家に限らず、様々な文化背景を持つ人たちとの「デュエット」を試みる尾竹永子によるプロジェクト。今回は、著名な自画像画家ベバリー・マカイヴァー、ラッパーのドン・クリスチャンが来日し、共演します。また、昨年他界した自らの母親への思いを作品に託して表現します。

実施日：５月８日（金曜日）19:00
会　場：東京芸術劇場　シアターイースト
出演アーティスト：尾竹永子、ベバリー・マカイヴァー、ドン・クリスチャン

『Your Teacher, Please』

―過日急逝した、歴史的舞踏家大野慶人の稽古に参加した体験をもとに、舞踏を支える独自のフィロソフィーに異文化の視点から迫ります。

実施日：5月19日（火曜日）19:00
会　場：東京ウィメンズプラザ　ホール
出演アーティスト：アナ・リタ・テオドロ

〈アーティストプロフィール〉
アナ・リタ・テオドロ　Ana Rita Teodoro
ポルトガル出身。仏・アンジェ国立現代ダンスセンター（CNDC）およびパリ第８大学で、修士号を取得。その傍ら、解剖学、古生物学、哲学、気功等も学ぶ。近作に、大野慶人のワークショップに参加した経験に基づくレクチャーパフォーマンス『Your teacher, please』（2018）、日本のカワイイ文化から想を得た『FoFo』（2019）などがある。現在、仏・国立ダンスセンター（CND）アソシエイト・アーティスト。

『美しきものを見し人は』

―90年代NYアンダーグラウンドシーンでカルト的人気を博した劇団ブラック・リップスを率いた音楽家のアノーニ（アントニー・ヘガティー）が再来日。トランスジェンダーの日本人パフォーマーであるジュリア・ヤスダと、過日急逝した舞踏家大野慶人に捧ぐ新作を世界初上演します。

実施日：5月21日（木曜日）19:00、22日（金曜日）19:00
会　場：草月ホール
出演アーティスト：アノーニ　ほか

〈アーティストプロフィール〉
アノーニ　Anohni
イングランド出身、ニューヨークを拠点に活動。アントニー・アンド・ザ・ジョンソンズとして2005年にリリースした『アイ・アム・ア・バード・ナウ』で英国最高峰の音楽賞マーキュリー・プライズを受賞。各国のオーケストラ、またルー・リード、チャールズ・アトラス、マリーナ・アヴゥラモヴィッチ、ビョーク等と共演する。2016年、ドイツのビーレフェルト美術館で展覧会開催、世界の珊瑚礁保護を呼びかける「Manta Ray」でオスカー賞にノミネートされた。

『大野一雄について』

―伝説的舞踏家・大野一雄について、一方ではその動きを記録映像から「完全コピー」することで忠実に再現し、他方ではその世界観の大胆な再解釈を試みる話題作を、7年ぶりに東京で再演。2013年初演以来、世界38都市で上演を重ね、2016年ニューヨーク公演はベッシー賞にノミネートされました。

実施日：5月24日（日曜日）14：00
会　場：草月ホール
出演アーティスト：川口隆夫

〈アーティストプロフィール〉
川口隆夫　Takao Kawaguchi
1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。2000年よりソロ活動を開始する。2013年に初演した『大野一雄について』は世界各地で高い評価を受け、ベッシー賞ファイナリストにもノミネートされた。東京国際レズビアン＆ゲイ映画祭のディレクター（1996～99）、イギリス実験映画監督デレク・ジャーマンの著書『クロマ』の翻訳（2003）、短編映画『KINGYO』（エドモンド楊監督、2009ヴェネチア映画祭正式招待作品）への出演等、その活動は多岐に渡る。

Photo by naoto iina

『気分はフランキー』

―2012年に東京に滞在、リサーチを行い制作。舞踏家の土方巽とコム・デ・ギャルソンの創業者でデザイナーである川久保玲に影響を受けた、トラジャル・ハレルによる振付。本人を含むダンサー３人のパフォーマンスと映像による作品。

実施日：６月上旬
会　場：後日発表
出演アーティスト：トラジャル・ハレル ほか

〈アーティストプロフィール〉
トラジャル・ハレル　Trajal Harrell
アメリカ出身。振付家として、The Kitchen、フェスティバル・ドートンヌ、アヴィニヨン演劇祭、インパルスタンツ等、世界の主要な劇場、フェスティバルで作品を発表。また、MoMA、ニュー・ミュージアム、ポンピドゥ・センター、バービカン・センタ等の美術館でも活動を展開する。2011年度（公財）セゾン文化財団ヴィジテング・フェロー。2014年、ベッシー賞受賞。舞踏に深い関心を寄せ、『ラ・アルヘンチーナ その後』『気分はフランキー』など、数多くの作品を制作。

写真(左)　Photo by Laurent Philippe

■ 川口隆夫ディレクション企画「川口隆夫と不可視的日本人」

―舞踏の代表作『土方巽と日本人 肉体の叛乱』（1968）から半世紀余、2020年現在の「日本人の身体」について考え、舞踏の新たな側面を提示する企画。観客は舞踏が現在も発展を続ける芸術であることを感じることができる。歴史的建造物の駅舎内で、国内外気鋭のアーティストによる数々の実験的パフォーマンスを展開。世界の舞踏に新風を吹き込んだ川口隆夫がディレクション。

実施日：４月 17 日（金曜日）～６月５日（金曜日）※ 詳細は後日発表
会　場：旧博物館動物園駅
出演アーティスト：川口隆夫、小林勇輝、酒井直之、アナ・リタ・テオドロ、トラジャル・ハレル、吉本大輔　ほか　※50 音順